
すばらしい世界へ。

っレイズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すばらしい世界へ。

【Nコード】

N5854F

【作者名】

っレイズ

【あらすじ】

ひよんなことから、異世界へと引き込まれる、なんかどこにでもありそうなお話。

ブローグ、俺とお前（前書き）

作者は軽くニコ厨の中3です。

期待0で読んでいただけると幸いです

ブローグ、俺とお前

「よっ！」と、一言声をする……。誰かと思えばその辺のやつ・
・っでわけでもないんだなこれが。

「ぎゃあああああああああああ、でやがつたな……。こ
の腐女子め……。」

「ちがつって何回いえばわかるのかな？君わ……。」

シユユユドーン！！バキバキ。

（バキバキってなんですか！？）

そのいびつな音のしたほうを見ると……。なんと！電柱が……
っでことはない。

でもまあ近所迷惑にはなるわなあ……。あれわ……

なんせゴミステーションの横にある転落防止用の策が見るも無残
におられているんだよな……。

「うわっ、こええわこの怪力腐女子・・・」

「あ？」

「いえ、何も申ししておりません！！アダムとイブに誓ってでもこれだけは申し上げておきます！！」

「んなこたどつてもいいーーーーまた言ったよね？しかも変な修飾詞つけて。ねえ？」

普通こんな場面があれば、そのままスルーでストーリーが進むと
いうものが多いような気がするが・・・

ボコボコ！！バキ、ボキッ！！ドーン！！シューーン・・・キラ
ーン。

一連の流れをk w s k（詳しく）説明していこう。

ボコ（1 H I T！）ボン（2 H I T！）バンボキドコバーン（3
4 . 5 . 6 H I T！！）

ドーーーーーン（F H I T）ぶっ飛んでいつて・・・の形で空のかなたえーシューーンピカーン！

という感じで、すばらしく格ゲーの雰囲気が出ているが・・・まったく言っていないほどリアルにやると痛いものだ。

これでは格ゲーの中では生きていくことはできないだろうな（考えるなボケ

「あー。やりすぎちゃった！まあいいや・・・必殺技使えなかったし」

必殺技って何だよ・・・ていうか追えよ・・・一応君ヒロイン役なんだから・・・（天の声）

「えーだって。あ、アイツが悪いんだからねっ！」

いや・・・キャラ違うよ・・・ってことはないけれど・・・（天）

どっちかって言うと自分から知っててツンデレやるのやめてくれないか？（天）

んー軽く読んでいるほうが引くわ・・・オタク怪力腐女子。(天)

「んー・・・。一回死ぬ？それとも性別変えようか？」

ん？そんなことできるはずないよ、見えてないんだからなwwバカめww(天)

「それは、そうなんだけどねえー。」

てかさっさと追ってやれ。かあいそうだ。(天)

「分かったわよ・・・追えばいいんですよ。」

ビューーーーーン。(1km11秒3の速さで3・4キロ走る)

「できるわけないでしょ!-!」

作者の考えでわ可能と考えております。(作)

「きゃっーーーーーーー!。走れないよぉ・・・早すぎるっ

てえー」

はぁ・・・はぁ・・・はぁ・・・はぁ・・・（エロく考えないでくれよ・・・。）

「ついたぁ・・・。。てかアイツはどこへ・・・」

周りをきよろきよろ・・・じーーーーー！。

「あつ！植木鉢に刺さってる！やつば私って天才っ！まあ今日の飛距離は3427mだったってことかな。」

「あつ！やばいつて！植木鉢が倒れそう！ほっとくか・・・。」

「。。あてえ。」

「あれえ？なんか聞こえる〜でもあえてのシカト〜」

「こら！！まで！！」

後ろを振り返ると、アイツという名のやつはこちらを睨んでいた。

すばらしい……。あんな殺気は並の人間では、出せるはずはないだろう。

「ひいっ！きてたの？」

「あの・・・君・・・人をぶっ飛ばしといて一言目に生きてたの？じゃないだろー！」

「えーだつて、3キロ半飛ばしたんだから、死んでくれて、いいじゃない？」

「あのな・・・お前・・・すぞ。」

「？　なんか言った？聞こえなかったんだけど？」

そりゃそうだ・・・これは言ったら絶対殺される・・・いろんな意味で殺される・・・だからいわないのさ！！

「なんでもない・・・。てか、お前は俺と一緒に遅刻してもいいのか？」

キンコーンカーンコーン

「ないわー!! まじないわー。もう、あ・・・あんたのせいなんだからねっ!」

だから、ツンデレやめろよ・・・。

「じゃ、私はもう行くから。傷が痛くなったら、言いなさいよ。それが保健室に行きなさいよ、絶対ね!」

「はいはい、わかりました。はいけ、くれはさんよ・・・。」

「また、放課後か、昼休みか、それとも休み時間か、またねーゆう。」

「ああ・・・。」

タッタッタッタッタ・・・

「さあて俺も行くかなあ・・・。」

いぬ！学校へ！

ってこれ言っべきか？言わないべきであらう。

ブローグ、俺とお前（後書き）

どうでしたか？あきましたか？

まあ飽きましたね、が多いかと思えます。
ではノシ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5854f/>

すばらしい世界へ。

2011年1月27日03時00分発行